

笠間焼廃材 遊歩道に

笠間市は、作家が制作し失敗した笠間焼の廃材などを道路の舗装に活用するプロジェクトを始めた。同市笠間の「工芸の丘」の建屋周りに60平方メートルほどの遊歩道を整備するのに使用する。アップサイクルへの賛同と整備資金の調達のため、100万円を目標にクラウドファンディング(CF)型ふるさと納税に取り組んでいる。

「工芸の丘」

市、CF型ふるさと納税

舗装材の製造は、細かく砕いてふるいにかけて陶片につなぎ剤を混ぜ、さらに接着剤を加えて固める。遊歩道の工事は3月中の完了を目指す。現在、改修工事が進んでいる工芸の丘のリニューアルイベントに間に合わせる予定だ。

寄付の受け付けは、ふるさとチョイスのガバメントクラウドファンディング(GCF)のサイト(<https://www.furusato-tax.jp/gcf/3798>)で、期限は3月31日まで。

(佐川友二)

笠間焼の廃材を使った舗装材のサンプルを示す笠間市の職員ら＝同市役所



不燃物として廃棄される陶器は通常、最終処分場で埋め立て処分される。伝統工芸品・笠間焼の産地でも廃棄される場合は同様の扱いとなり、その量も多いとみられるが、廃材の再資源化や利活用はさほど進んでいないのが現状だ。

市のプロジェクトは、笠間焼の再資源化の在り方に一石を投じる狙いがある。工芸の丘メイン建屋西側近くの遊歩道の表層部分に陶の廃材を用いる。担当する市環境政策課によると、笠間焼協同組合と県立笠間陶芸大学の協力を得て、作